

**花巻市東和地域協議会
平成23年度第3回会議記録**

日 時	平成24年3月19日(月) 10:30~12:00							
場 所	東和総合支所 1階 第2会議室							
委 員	役 職	氏 名	出席	欠席	役 職	氏 名	出席	欠席
	会 長	小原 宏	○		委 員	菊池 元子		○
	副会長	吉田 英雄	○		委 員	猿舘 祐子	○	
	委 員	浅沼 幸雄	○		委 員	菊池 三恵		○
	委 員	小川 洋征	○		委 員	平野 広	○	
	委 員	平野 保	○		委 員	門馬 優子	○	
	委 員	赤坂 学	○		委 員	藤井 公博	○	
	委 員	多田 啓紀		○				
出席職員	生活福祉部 長寿福祉課 課長 内舘桂 地域福祉課 地域福祉係 主任主査兼係長 中村陽一 東和総合支所 支所長 赤坂謙 地域振興課 課長 多田潤、地域支援室地域支援監 青木力三、地域づくり係 主査 伊藤精一							
傍聴者	0名 (うち報道機関0名)							

1 開会(司会:伊藤主査)

※ 支所長あいさつ(2 会長あいさつの前に)

協議会委員の皆様には、年度末のお忙しいところご参集いただきましてありがとうございます。今日が2年の任期の最後の協議会の開催でございます。ご承知のとおりこの協議会というのは、地方自治法の中で定められた地域自治区に設置する協議会でございます。市からの様々な計画の審議、諮問、さらには東和地域の様々な課題について、審議するあるいはご提言いただくという、非常に重要な協議会でありまして、本定例会におきましても、一般質問さらには予算委員会の中で協議会の役割といったものについて様々論議されてきたところでございますし、合併7年目に入りまして、合併前からのそういった引継ぎ事項等の進捗状況、あるいは実施状況等についてのこともございますし、また合併後の新しいまちづくりの段階を踏まえて、協議会については今後も設置される訳でございますし、地域振興のための思いを持ってもらいたいと思っております。任期は4月30日まであります。次の任期のことでありますけど、ただ今公募委員3名を有線放送で募集いたしております。4月5日までということでありまして、それぞれ団体推薦の皆さんも委員としていらっしゃるわけでございますけど、もしそちらのほうを外れるのでありましたら、公募委員のほうに立候補といえますか、手を上げていただきたいなと思っております。これまでの2年間の皆様方のご労苦に敬意を表しましてあいさつにさせていただきます。今日は最後の会ということで昼食会を準備しております。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

2 会長あいさつ

それでは改めましておはようございます。私どもこのメンバーで行われます協議会も、最後になるという訳でございます。振り返ってみますと言いますと、平成22年度の活動状況でございますが、諮問答申ということでお話いたしますと、花巻市過疎地域自立促進計画これについての諮問をいただきまして、答申を行ったということでございますし、それから、22年の12月には花巻市総合計画を素案の見直しについてということで、これにつきまして原案を可とするということで答申をしたということでございます。それから説明を受けましたのは、花巻市の公共交通の中期計画の素案ということで、質疑応答となったところでございます。また、自主活動におきましては、合衆市イーハトーブ花巻構想に基づく具体的な取り組みということで、平成22年の10月6日に議案を審議しているところでございます。22年度は5回集まっているということでございます。また、23年度については、諮問答申はございませんでした。自主活動といたしまして、23年度の自主活動計画について、それから11月8日には東和地域の懇談会ということでございまして、各コミュニティ会議の会長さん共々いろいろな意見の交換を行ったというところでございます。そして最後の今日の会議でございます。自主活動といたしまして、花巻市生活福祉部の内館課長さんがお忙しいところお越しいただきまして、保健福祉の総合計画についてご説明をいただくということになっておりますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。今日はよろしくお願いたします。

3 報告（進行：小原会長、説明：多田課長）

花巻市総合計画の見直しについて、説明をお願いしたいと思います。

多田課長

このテーマはですね、多田啓紀委員さんからいただいたものでございますが、この資料は新総合計画策定室の方からもらったところでございます。私の方から簡単に説明いたしますし、補足については副会長さんがこの前の会議に出ておられましたので、もし補足がありましたらお願いいたします。それでは簡単にご説明申し上げます。

まず1ページ目でございますけど、丸の4番目でございますけど、ここにございます総合計画審議会での審議やパブリックコメントの結果を整理し、いただいたご意見を反映した計画とすべく策定作業を進めてまいりましたが、2度の延期を経た後、平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、作業の中断を余儀なくされたということは、皆さんも承知されていると思います。その結果を受けましてですね、次の丸でございますけど、後段でございますけど、総合計画の見直し自体を中断することとし、平成23年6月29日付けで当委員に対し通知したということも皆様ご承知のことと思います。そして次の丸でございますけど、このような中であってですね、震災後の現状と今後の社会経済情勢の変化を見据えた計画として再構築の必要があると判断されたことから、改めてですね、計画を練り直すということに至っております。一番最後の丸でございますけど、この計画につきましては、平成26年度を計画の初年度として、平成25年度内の計画決定を目指して策定を進めることとしたというふうなことでございます。

次のページでございますが、議会の方で説明した資料でございますが、今後の新総合計画の策定状況について書いてございます。まず1番目は、これまでの取り組みと今後の予定ということで、昨年12月に新総合計画策定室を設置したということで、いろいろ富士大学との協議を経てやっているようであります。それから本年に入りまして、1月に中学生まちづくり円卓会議を開催していろいろ意見を伺ったと、それから4月来月でございますけど、今度は総合計画市民会議を設置した後、ここに書いてありますように、市民アンケートそれから特定課題懇談会、まちづくり円卓会議、市政懇談会等々でご意見を伺いながら、そのご意見を計画に反映させていこう

というものでございます。また来年4月ですね、これにつきまして、新総合計画まちづくり長期ビジョンこれを公表して意見を伺うという予定のようでございます。さらには9月になりまして、長期ビジョンの案を議決して、26年の4月からこの計画をスタートさせたい、というふうな予定のようでございます。それから計画の期間でございますけど、長期ビジョンといたしまして10年、そして中期プランといたしまして、3年3年4年ということで3次プランまでを区分けしてやろうとしているようであります。

それから次の3ページでございますけど、今言ったようなですね、計画策定のフロー、流れを書いてございます。

それから次のページでございますけど、先ほど申しました市民会議の委員の募集要項でございます。人数的にはですね、5ページの7にですね40名程度ということで非常に多くの方々を募集するようでございます。で応募多数の場合は抽選とすると書いてございますけど、まとめる方も大変かという気がしておりました。これは募集期間が3月30日までということで、もし関心のある方は応募されてはいかがでしょうかということでもあります。

いずれにしても、これからですね40名の委員さん方から意見を伺ったり、市民アンケートそれから市政懇談会あとはパブリックコメントとか、いろいろそういうふうなもので意見を聞きながら、新たに作っていかうというふうな形をとるようでございます。

花巻市総合計画見直しの進捗状況についてということで報告させていただきました。

4 自主活動（進行：小原会長、説明：内館課長）

次に4でございますが、自主活動に入りたいと思います。花巻市保健福祉総合計画について説明をよろしく願いいたします。

内館課長

長寿福祉課長の内館でございます。今日はこうした時間を取っていただきましてありがとうございます。本来であれば所管の地域福祉課長が来てですね説明すべきでございますが、今日は他の行事ということで代わりに私が出席させていただきました。まずもって日頃は本市の福祉行政に皆様方の大きなお力添えをいただいておりますことに、改めて感謝を申し上げたいと思う次第でございます。今日は保健福祉総合計画をお話させていただきますが、これからの本市の福祉の分野でのあり方についてですねお話をさせていただくと同時に、今度は地域での取り組みという部分も大きなテーマとして掲げられてくるだろうな、というふうに思いますのでよろしくお願いしたいと思います。

資料といたしましては、このA3の大きい資料でございます。それにもう1つですが冊子になっておりますが、保健福祉総合計画ということで用意させていただきました。今日は横長の表のところでご説明をさせていただきたいと思っております。

まずですね、この花巻市保健福祉総合計画ということで、福祉ということにつきましては子どもから高齢者まであるわけでございますけど、これまではですね、それぞれの個別計画で様々な施策を展開したところであります。例えば地域福祉計画、高齢者福祉計画、介護保険事業計画及び障がい者計画それぞれが3か年から7か年という部分での計画が作られてきたところでございますが、それぞれ個別にそれぞれがやっていっていいだろうかというのが、ここ2、3年前から議論になっておまして、やっぱり福祉は1つ総合的な部分でお互いに計画が連携しあう中で相乗効果をあげるということで、総合的な計画をまず作っていく必要があるのじゃないのかという話が生じてまいりました。その結果、平成23年度に入りましてその取り組みを本格化しようということで、去年の6月、7月頃からですね、策定委員会の設置やらたたき台となるそれぞれの

課の所見を交えながらプロジェクトを作りながら、進めてきたというところでございます。この計画を作る前に、子どもそれから高齢者、障がい者あるいは健康という部分でですね、どんなふうな状況にあるのかといういわゆる現状、そして課題が何であるのかということで総じてまとめたのがですね、この表の1番右側にありますように現状と課題ということで書いてあります。

まず1つはですね、核家族化が進むことにより、一人暮らしや日中家に一人になる高齢者、障がい者が増えてきているというそういう中で、やはり地域での見守りや支えあいが必要になるのではないのか、ということでございます。2つ目は高齢者の人口増加というのが言われておりますし、介護を必要としてくる人も増えてと見込まれることからですね、高齢者福祉施策の充実を図っていくとそのためには介護予防のためにですね、健康で元気な高齢者を増やすことが急務です。というような現状課題を示したところであります。それから3つ目は核家族化及び高齢化の進行に伴って、障がい者は、頼れる親がいなくなった後の生活について不安を感じており、将来にわたって住み慣れた安心して生活できるように支援していくことが必要であるというところでございます。4つ目はですね、核家族化の進行や女性の社会進出により、要保育児童の低年齢化が進み、子育てを地域で支える環境づくりが必要です。ここは子育ての関係ですけど、もうすでに0歳児から保育園を使っている状況が見受けられます。それから5番目最後ですが、少子高齢化の進行や生活様式の多様化に伴い、健康増進の重要性が増大しており、安心していきいきと暮らすためには、みんなが健康づくりに取り組むことが必要です。これは健康づくりは従来から言われてきておりますけど、なかなか日頃からの健康づくりという部分への関心が高まってこない、それは健康診断の受診率等にも表れてきておるのかな、というような分析をされたと。

こうした現状と課題からですね、どういうふうにこの市としてですね、取り組む姿をどう持っていくのかということではですね、一番大きい横にですね書いておりますけど、その下にちっちゃい5つほど、先ほどの現状と課題から分析からですね、どうそれぞれ目標を掲げていったらいいのかということで、5点ほど星印を付けております。1つは、共に助け合い安心して暮らすことができるまちというものを目指していこうと。それから2つ目は、高齢者が慣れ親しんだ地域で、心身とも健康で生きがいをもって生活できるまちというものを目指していこうと。3つ目は、障がい者が住み慣れた地域で安心していきいきと生活できるまちを目指していこうと。4つ目は、子どもが親が地域が育ち、子育てに喜びを感じるまちをつくっていこうと。そして最後が、丈夫な体と豊かな心を持ち、お互いに助け合い、健康で安心して暮らせるまちというものを目指していこうと。それぞれの分野からの目指す姿の目標が掲げられておりますけど、これを総体的に保健福祉総合計画として位置づけていき、目指すものを何にするかということで議論していただいでですね、ここに誰もが慣れ親しんだ地域で、共に支え合い、安心していきいきと暮らせるまちを目指していこうと、こういう目指す姿を掲げたところでございます。

これを掲げたことによりましてですね、先ほど言いましたようにこれまで個別の計画がございました。個別の計画がどうなったのかとこれを実施計画にしていこうということでございます。ですから今まで例えば地域福祉計画あるいは高齢者計画がありましたけど、これは今後もそういう名称のもとで実施計画をしていこうと。その具体的な取り組みについてはですね、次のページ以降でですね表になってございますので、ちょっとご覧になっていただければと思いますが、例えば次のページを開いてもらって、一番左側の目標のところ、共に助け合い安心して暮らすことができるまちという目標に対しましてですね、どういう施策を展開していくのかということにはですね、3つの大きな項目を作っております。1つは、お互いに支え合う地域づくり、それから安心して利用できるサービスの提供、それから3つ目は、安全・安心なまちづくりということですね、この方向を目指していくためにどんなことを手掛けていくかということにはですね、具体的取組（細目）というところでこの四角い箱の中に番号をふっておりますけど、こういった

中身のものを手掛けていこうということで、この具体的な中身は何かということは、実施計画という部分にしか記載しておりませんので割愛しますが、つまりこういったことが5つの分野で作られているというふうにご理解をいただきたいなと思います。

そこで、目指す姿をもう一遍見ていただきますと、これまででもですねいろんな計画で目標を立てておりますけど、あえて私がここで話したいのは、共に支え合うそれから安心していきいきと暮らせるまちと、この共に支え合う部分をどうやって作ってあげればいいのか、これを市が作ればいいのかではないのかということではございません。皆さんでどういうふうにしていったらいいのかと共通の目標に向かってですね、それをどう手立てをするかを考えていただくということをぜひ念頭に置いていただきたいと、このように思っております。それから、安心していきいきと暮らせると書けばこのとおりですが、私どもが暮らしていくために、安心というものは何なのかこれを考えなければならぬのではないかと思います。ある人にとっては、安心というのはお金というのもあるかもしれませんが、それから住まいということもあるかもしれませんが、それから医療機関がそばにあれば、あるいは高齢者にとっては見守りができる施設があればと、いろんな多様なニーズとあります。お考えがあるかと思いますが、そうしたことがですねどのようにその人たちにですね、還元できるかという部分があるかと思いますが、いずれ安心していきいきと暮らせるまちを目指すためにはどうするか考えていくことが大事だろうなと思っております。

そうした中で、こういうものを取り組んでいく時に何が大事かということで2つあげました。1つは、地域力の向上であります。この中身といたしましては、振興センターに情報を集約するしくみづくりをする。あるいは「結い」や「絆」による地域での支え合いの大切さを、市民とともに考えていきます。言葉としては絆とか結いはいいんですが、非常に希薄になっている今の現状があることは事実です。しかしながら、こうしたやっぱり日本ならではの言い方ですか、こういうものを一遍ですねお考えいただく、あるいは、これからの次世代の子供たちが若い方々を含めて、何を伝えていくかということも併せてですね、我々は考えなければならぬだろうと。その時には、行政が一本で有りきではないだろう。やっぱり、地域というものが人を作る、あるいは社会を作る基本でありますので、そういったことが必要であるということが打ち出されたところでございます。もう1つは、「生涯、現役」精神の啓発ということで、障がいの有無や年齢に関わらず、それまで培われた経験や持てる能力を誰かのために役立てる「生涯、現役」精神を、あらゆる機会をとらえて啓発していきます。このように2つの取り組みの基本姿勢ということで、今後我々は展開していきたいと思っております。

先ほども言いましたように、今後大事になることは何かと言いますと、こうしたまちを作っていくために大事なことは何かと、やっぱり地域力の向上に着目していくことがあるのかなと考えております。しかしながら、今地域で何が起きているかという、地域でいろいろ物事に取り組んでいきたいがなかなか参加できる状況にない、それは日中お仕事をされている方もありますし、土日でないとか集まれないとか、そうした中でも集まりが悪いという話も聞きました。これも生活の多様化、あるいは暮らしの中でも特にもやっぱり共稼ぎも増えている状況で、従来と違った姿にはあるだろうなというふうに思います。しかしながら、やっぱり地域が1つの単位として、これからの社会を築いていくためにはこういったところへの手立てをどうやって行ったら良いかというのが、具体的な取り組みの中で支援していかなければならないなというふうに思っております。

今後ですね、こういうふうに掲げたところがございますけど、この総合福祉計画は24年度を初年度として10か年という長期の計画であります。その中で掲げた目標に対して到達できるか、努力が必要だろうと思っております。そのために取り組みを強化していかなければならないというのは当然のことと思っております。

そこで1つ、私の分野の介護保険の方をお話させていただきますけど、ご承知のように介護保険というのは3年に1回ですね計画を作らなければなりません。これは何かと言いますと、保険料等ですね見直すと言いますか、サービスの提供の供給量これを見直さなければならぬことでもあります。新聞でも報道されておりますように、第5期の保険料は基本額で言いますと、今現在は4,209円ですがこれが4,859円ということで650円ほど上がります。上がりますけども、その金額を設定したことはどういう理由なのかと言いますと、今花巻市の介護の認定を受けている方々は5,200人いらっしゃいます。これは年々少しずつ伸びていくだろうと思っております。でサービスも量と言いますか受ける量も多くなっていくことと思っております。そういたしますと当然に介護給付費というものも伸びてまいります。給付費が伸びますと言いますと65歳以上の方の負担する保険料も上がりますし、それから40歳から64歳までについても少しずつ上がっていく状況になります。これはなぜかと言いますと、介護保険制度では国も都道府県も市町村もお出しはしますが、対象となる65歳以上の方1号保険者、それから40歳から64歳までの2号保険者も保険料を出して、介護保険制度中ではそういう負担をしながら、運営していきますという制度でありますので、当然にサービスがどんどん供給量が伸びていくと、それに伴うお金を負担が増えますので、それを支えていく国も負担をしますが皆さんも出してくださいねという制度であります。いずれそうは言っても、どんどん高くなっていくというのはこういう厳しい状況の中ではですね、容認できる話ではないという声もございまして、できる限りこの負担を少なくしていくことでは、花巻市でも基金を持っておりましたのでそれを取り崩しますし、県の方に出している財政調整基金というのもありましてこれも取り崩すということでありまして、いくらかでも額を小さくしようと努力をしております、総体で188円ほど低くしたところでございまして、もしこれがなければ5,000円を超えておりました。国でも第5期は大体4,800円から5,000円になるだろうなという話もされておりますが、県内でも盛岡市では5,200円にするという話であります。県内の平均は大体4,800円と花巻市と大体同じくらいかなと思っております。いずれこの介護保険は認定を受けた方のサービスを受けることによって、給付費を皆さんが負担していくということでございまして、それを抑えるためにはやはり日頃から介護予防という部分に努めていかなければならぬだろうと思っております。そのためにその取り組みをですね、今まで市も一生懸命やってきておりますがまだまだ足りない。これをですね、やっぱり地域でも考えていかなければならないじゃないかと思っております。すでに各地域でも独自の取り組みをしているところもございまして、ふれあいサロンということで取り組んでいるところもございまして、あとは市の事業でも湯のまちほっと交流サービス事業、温泉を使った事業でございまして、いずれ介護予防といういかめしい名称を使っておりますけど、普段から健康づくりとかとじこもり防止とか他者との交流とか、こういうものをごく当たり前にできるような状況をつくっていくことが肝要であろうかと思っております。事業を展開するという部分ではまだまだ必要な部分もあるかと思っておりますけど、しかしながら百人百様の取り組みをできるわけではございまして、多少なりともそれへの参加を大いにすすめていただくことが大事だろうと思っております。

もう1つ高齢福祉という分野があります。高齢福祉は1つは元気のいい高齢者の皆さんが社会参加をしていただくということでの支援の事業に取り組んでおります。端的に言いますと、老人クラブの活動なんかも1つの例であります。しかし今老人クラブへの参加が少なくなってきた。老人クラブ数も減ってきている。そうしますとですね、やっぱり地域づくりという部分では、公民館、自治会、コミュニティ会議が中心となっていていろいろな行事や活動を展開しているでしょうけど、なかなかできてなくてですね地域の困りごとでは、いろんなお話をさせていただいておりますけど、こういうことも1つは老人クラブへの参加が増えていくことによって、1つは地域の

支えあるいは地域の活動を発展させていく1つの礎というような部分での活躍が期待されるところでございます。そうしたところへの支援もやっていかなければなりません。しかしながら、そうは言っても限界はあろうかと思いますが、そういった中でも先ほど言いましたように、地域に根差した活動、地域で取り組む活動がこれから大事になってくるだろうと思っておりますので、そういう意味では花巻市保健福祉総合計画という中でも、この目指す姿のまちを目指してそれぞれの取り組む中でも、特に地域での力というものをもう一遍ですね再構築する、あるいは再発見しながらも取り組んでいく、そうした取り組みをですねこれからも展開していただくことが、大事であろうと思っております。こういう1つの計画の中でそれぞれ目標達成に向けての指標というものを掲げてはおりますけど、詳細については今この冊子を印刷中でございますから、できる限り皆さんの目に触れる機会を作っていきたいというふうに思っておりますので、改めてご覧いただきながら個々の取り組みへの参加あるいは新たな取り組みへの参画という分野での地域の皆さんの取り組みへのご協力をいただいて、この目指す姿である誰もが慣れ親しんだ地域で、共に支え合い、安心して生き生きと暮らせる東和、花巻というものをつくっていただくようお願いしたいと思います。

ちょっと資料不足で申し訳ございませんでしたけど、まずは総括的なお話をこの資料でさせていただきました。あとは先ほど言いましたように目に触れさせていただくことになるかと思っておりますので、この冊子ができましたらご覧いただきながら、もう一遍見ていただきたいと思っております。私からは以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

小原会長

ありがとうございました。課長の方からお話をいただきました。この機会にご質問等ございましたらご発言をいただきたいと思っております。

赤坂委員

花巻の人口形態を市民の方にお示し願いたいと思っております。

内館課長

人口の動向につきましては総合計画の中でお示していくと思っておりますし、広報誌などにですね毎月載っていますよね、世帯数とかそういったものを参照していただくことも、つとめていただければと思います。

小川委員

計画の中に地域との共生とか、地域で環境づくりをすると出てきますが、その地域というのは誰を指すのか、自治会を指すのか、区長を指すのか、先立ちを誰がやればいいのか、それが全然見えてこない。行政が目指す地域というのは誰を指して、どのような具体的な活動を行えばいいのか。

内館課長

私の方で取り扱っていかうとするのは、福祉においては地域に市が入っていかなければならない。それでは市が入っていかなければならないというのは、包括支援センターをもっておりますから、ここと一緒になって地域でどういうふうにしたら良いかという計画作りをやっていただくというのが大事ではないか。市が命令する話ではなく必死になってどうすればいいか考えていく中で、計画づくりの中で市が支援していかなければならない。今まではそれが不足していたとい

うふうに思います。高齢者の計画づくりに関しては包括支援センターが入ったり、介護サービス事業者が入ったり、民生委員さんが入ったり、自治会の区長さん、あるいはその保健福祉を担当する方が入ったり、コミュニティ会議の担当の方が入ったり、そういう中で議論しながら地域の課題を見つけてどう取り組んでいくのか、自分たちでどこまでできるか、できないところは市がどこまでやっていくのか、住み分けをできるそういう場を作っていく必要があるのではないかと思います。施策としてはモデル的なところを選んで、それができるかどうかというものを話し合いしていくべきだと思います。

小原会長

市民会議で委員を募集していると、意見を出し合うところでワークショップをやりますと言っておりますが、自分たちで意見があるのであればそこに入って行って、こうした方がいいというものと言った方が速いのではないかと。

藤井委員

例えば、そういう審議会に私いろいろ参加してさせていただいておりますが、身体障がい者の関係でいえば、4,500人の手帳交付者がいますが、そのうち推定では4,300人は自立しています。どうしても自立できない人たちは、いつまでも施設に閉じ込めておかないで家庭に戻ってもいい環境をどうするか、根本的にはそこなんです。老人福祉もそのとおりで、介護認定を受けてどうしようもない方を全部行政に任せるのではなく、隣で困っている人がいれば雪はらいの1つでも手伝うとか。これが老人福祉において我々が考えることだと思うんです。

小原会長

地域力の向上というのは、その地域の人たちをどのように動かすかということだろうと思います。関係ないと思っている人を関係があるところまで上げてやると、（そうすると）もう少し別になってくると思うんですけど。

平野保委員

計画そのものに異論を差しこむようなことはないのだけれども、なかなかこれを実行することになればたいへんだろうなと思います。

内館課長

そこです、情報の提供がやっぱり重要だと思っているんですよ。地域の中で取り組もうとするときに、入りながら情報の提供をやっていかなければと思っております。

門馬委員

（ごみのカレンダーのように）ちょっと具合が悪くなって不安を感じた時はここに相談してみようとか、経済的に不安を感じたときはこの窓口というものを配布するのもいいんじゃないのか。

内館課長

高齢者の方々に対するサービスだとか、お伝えしなければならぬこの啓発をどのようにしたら良いか、今までのスタンスは広報誌に載せていましたよということでしたが、もうちょっと地域に根差した広報誌というものがあるのではないかと。例えばコミュニティ会議の広報誌にちょっと載せてもらうとか、そういった身近な部分をどうするか取り組みを重要視しなければならぬ

いかと思います。

平野広委員

少なくとも動けるうちに身近なものからですね、今の組織に左右されない形で何かつくっていききたいという気持ちだけはあります。それが何かにつながるんじゃないかと思っています。

猿舘委員

新総合計画の策定で図式化（新総合計画策定フロー）しておりますけどこういう形で、例えば振興センターの立ち位置がどこにあるのか、全体の中の自分たちの位置づけみたいなものが図の中ではっきりすると意外と動きやすかったりする。（こういうものを作れば）地域に押しつけられたという形ではなく、市とみんなでやっていくというのが伝わるとと思います。

浅沼委員

我々の行政区では、高齢化率が平成15年度当時で31%でしたけど、今年度は34.5%と上昇しております。急速に過疎化になることを心配に思っております。見守りする人も少なくなってきており、そういう余裕もなくなってきております。悲観的なことを言っても仕方ないので、もう少し前向きにご指導を得ながらやっていきますので、明るい未来を与えていただきたいと思っております。よろしくをお願いします。

吉田副会長

総合計画にある4番目の子育て支援ですが、非常におざなりとは言いませんが、花巻市の場合実践が伴っていないと感じます。総合こども園も話題にはありますが、国自体もはっきりした指針を出せないでいる、若いおとうさんやおかあさんが子育てに悩んでいる、仕事も犠牲にしている形なんですね、このことについて行政の支援をぜひお願いしたい。

小原会長

それでは自主活動の保健福祉計画につきましては、いろいろご意見等あるかと思いますが、限られた時間でありますのでこれで打ち切りたいと思っておりますが、皆さんがそれぞれ思っている意見をお話ししたということですので、これをぜひ地域に持ち帰ってですね、参考になるものは参考にさせていただきたい。そういったことをお願いしたいというふうに思っております。私は常に元気なうちは世話をするという、弱くなったら世話になるというこういうことをですね、底上げをしていくことが必要ではないかと思っているところであります。それでは自主活動につきましてはこれで終了させていただきたいと思っております。課長さんありがとうございました。

5 その他（なし）

6 閉会（司会）